

(対象事業：~~地域連携強化事業~~・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名： 佐賀城下絵図を読み解き、
まちづくりに活かそう！

事業者名： 徴古館

住所： 佐賀県佐賀市松原2丁目5-22

TEL： 0952-23-4200

FAX： 0952-23-4200

HPアドレス： <http://www.nabeshima.or.jp>



徴古館

連携事業者名： 幕末佐賀科学技術史研究会・鍋島文化を支える
会・佐賀城げんき会・プロジェクトA.S.（支援
：佐賀市・佐賀県）

会場： 徴古館

事業期間： 平成21年6月25日～平成21年12月22日

1. 館の使命と本事業の関係

当館は鍋島家12代直映公により「我郷文化発達ノ経由ヲ探求スル」（当館創設に際しての直映公の式辞）ため、昭和2年に創設された。現在では旧佐賀藩主・侯爵鍋島家伝来の資料を扱う地域博物館として、年4回の企画展示やイベントなどを通じ、鍋島家や近世佐賀の歴史と文化に関する情報発信拠点として活動している。収蔵資料のひとつである佐賀御城下絵図は、近世初期に鍋島家によって形成された近世城下町佐賀の町割りや建造物の位置、居住者名など詳細な情報を含む資料であり、町の姿は近世を通じて大きな変化はなく、一部は現在にまで生きている。このような御城下絵図は「我郷文化発達ノ経由ヲ探求スル」上で格好の素材であり、これを市民と共に読み解く本事業は、地域博物館としての使命遂行に直結する。

2. 企画内容

①事業目的

御城下絵図に表された道路や水路等は今に生きており、佐賀市街地における町づくりの原型を知ることができる。本事業の目的は、御城下絵図を連携市民団体あるいは一般市民と共に読み解くことで、市民にとっての生活現場の原型である「城下町佐賀」の実態を認識し、地元への歴史意識を啓発することにある。地元の歴史を知り郷土への誇りを持つことで自信につなげ、今後行政と連携して歴史・文化を核としたまちづくりを推進する上で、この市民の力が強力な援護となるであろうことも念頭に置いている。

②事業概要

第一に、連携市民団体や市民一般が御城下絵図を読み解くための素材づくりが必要であるため、絵図の複製パネルや屋敷帳や竈帳など文字資料の複本を作製した。

第二に絵図の存在を周知し、内容を読み解く機会として、企画展「御城下絵図に見る佐賀のまち」や講演会、ワークショップ、探訪会などを実施し、多角的に市民に参加を呼びかけた。

なお、事業遂行のために各団体の世話人や支援者による打合せ会を度々開催し、意思統一を図りながら、事業を実施した。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

- ①御城下絵図および武家地の屋敷帳、町人地の住民台帳である竈帳(かまどちょう)を読み解くことで、近世城下町佐賀の実態を明らかにする。
 - (a) 読み解き作業を進める基礎となる、実寸に近いサイズの御城下絵図複製パネルを作製。
作製にあたっては御城下絵図の写真撮影、出力、板張り業務を外部委託した。
 - (b) 御城下絵図を現代の地図と重ね合わせる業務を外部委託し、現在の位置とのおよその比定が可能になった。
 - (c) 御城下絵図と関連する文字資料として、武家地の屋敷帳や町人地の竈帳の複本作製し読み解く。複本作製は外部委託した。



連携団体イメージ図

- ②上記の成果を市民や行政などに広く公開・還元する、または共同で実施する。
 - (a) 作業は基本的に4つの連携事業者(市民団体)と連携して実施した。
 - (b) 展覧会「御城下絵図に見る佐賀のまち」(会期：平成21年9月14日～11月21日)を開催した。企画展では、①で作製した絵図パネルや現代地図との重ね図、文字資料の複本を来館者の利用に供した【入館者数:1387名】
 - (c) 展覧会中には講演会を2回開催し(9/26【62名】、10/24【51名】)、竈帳を読み解くワークショップを3回開催した(9/26【30名】、10/24【15名】、11/14【12名】)。
 - (d) 探訪会・見学会の実施
御城下絵図などを手掛かりに佐賀城下町を実際に歩く実地探訪会や、佐賀の周辺地区に学ぶ見学会を開催した。日程・コース等は次の通り。
7/19 長崎・諫早見学会【51名】、9/13 第1回城下探訪会(赤松校区)【79名】、9/27 諸富・大川見学会【16名】、10/18 第2回城下探訪会(循誘校区)【90名】、11/15 第3回城下探訪会(勧興校区)【88名】、12/6 第4回城下探訪会(日新校区)【87名】



平成21年10月29日
地元の小学生が企画展に来館

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 1,968 人
内 訳： 上記(1)のとおり

(3) 事業により作成した印刷物等

- ・企画展「御城下絵図に見る佐賀のまち」展ポスター
200枚・チラシ10,000部
- ・屋敷帳複本 3種21冊×2組
- ・竈帳複本 31冊×2組
- ・御城下絵図複製パネル 7枚
(別に当会経費による見学会(2回)城下探訪会(4回)の配布資料、展覧会の小冊子を作成)



展覧会ポスター

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事(掲載年はすべて平成21年)

【事業全体に関する記事】

佐賀新聞5月24日付朝刊／同紙7月1日付朝刊／同紙7月26日付朝刊

【企画展に関する記事】

佐賀新聞9月9日付朝刊(右写真)／西日本新聞9月10日付朝刊／毎日新聞9月15日付朝刊／西日本新聞9月17日付朝刊／佐賀新聞9月23日付朝刊／朝日新聞11月8日付朝刊／佐賀新聞11月5日付朝刊(読者投稿記事)

【探訪会に関する記事】

佐賀新聞9月14日付朝刊／毎日新聞9月14日付朝刊／佐賀新聞9月16日付朝刊／朝日新聞11月8日付朝刊／佐賀新聞10月27日付朝刊(読者投稿記事)



佐賀新聞9月9日付朝刊 ▶

○テレビ、関連誌等

- (1) 佐賀新聞ニュース：地元ケーブルテレビで放映されている「佐賀新聞ニュース」内の「ニュースピックアップ」にて、本事業の企画展・探訪会を特集。
(動画配信ウェブページ：<http://www.youtube.com/watch?v=m-8aJPHUdkc>)
- (2) 『月刊ミュゼ』第91号(アム・プロモーション、平成22年1月発行)にて本事業紹介記事(「『なんもなか病』の特攻薬となるか。佐賀御城下絵図へのまなざし ―市民の郷土愛―」)

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

読み解き作業や探訪会を通じて連携事業者間での「御城下絵図を活かしたまちづくり」という意識や手法が共有でき、さらに支援団体である佐賀市による「歴史町歩きマップ」作成計画など、連携事業者の外にあった行政へもそれが波及した。

また展覧会・探訪会等には予想以上の数の市民が来館・参加し、展覧会では絵図に関する地域の情報が寄せられ、探訪会では専門家のほかに地元民による解説を取り入れるなど、本事業の成果を市民が受動的にではなく主体的に受容する機会を何度もつくることができた。市民の多くは自らの知識や情報を提供することで、次第に活発に、積極的に、そして大いに楽しみながら行動されるようになった。

第10回佐賀城下ひなまつり（平成22年2月20日～3月31日）期間中に企画された「長崎街道沿いに残る 佐賀のよかところ発見」（主催：佐賀市歴史民俗館）は、城下東部の材木町・上今宿町・柳町に残る6軒の旧家で、各家に残る歴史ある貴重な品々を展示、町屋内部を公開するというものであったが、本事業に積極的に参加された方々が自宅の公開に協力し、実現したものである。

ただ解説作業は緒についたばかりで、元文五年（1740）の御城下絵図と同時に作製された屋敷帳のみ解説を終えたが、資料集としての印刷や他の資料の解説は、継続支援により深めていきたい。

いわゆる「佐賀城下絵図の読み解き」作業は殆ど手付かずであったが、本事業で集積した基本的な資料をもとに、平成22年度も継続的に様々な探訪会、徴古館2階でのワークショップを実施して読み解き、その成果を反映した展覧会を開催する。

佐賀市の支援もあり、現在の都市計画図に文化年間（1810頃）の御城下絵図を重ね合わせたマップの作製、頒布も可能となった。複製絵図の作製・頒布については今後の課題である。

展覧会や探訪会など一時的な働きかけの他に、恒常的な物としていかに成果を残すことができるか。まちなかへの標識や説明板の設置、旧町名の復活など、佐賀市との連携をより強める必要がある。



平成21年11月15日
第3回城下探訪会（勸興校区）